

## 『第 11 回 教育と安全フォーラムinひろしま』を終えて

実行委員長 坂井 千春

第 11 回となる本フォーラムは、今年も広島県内外から多くのご参加をいただき、実りある研修として盛会に終了することができました。

今回は、日本スポーツ振興センター学校安全部災害共済課長 岡田 正巳様より「災害データの活用とこれからの安全支援の課題」と題しての講演においては、学校現場においてどのように災害データが活用できるか、資料や実際の活用例を提示していただきながらご教示をいただき、安全管理の取組、安全教育の大切さなどを再認識することができました。

また、体験交流では、参加者が13グループに分かれ、救急車要請時の学校体制や要請判断に反省や課題が残った“ひやり ハット”の体験を中心に交流を深めました。助言の先生方からは、日常の教育活動の中でも起こりうる救急場面を想定した事故防止の取組と教育、いざというときに機能する緊急体制の在り方、研修・演習を継続していくことの必要性など、多くのご示唆をいただくことができました。

さらに、午後は、岡山大学大学院 三村由香里教授より「救急処置における緊急性の判断の考え方」と題してのご講演においては、緊急度・重症度の判断をするために必要な、知識・技術を身につけるための専門性の高いご講演をいただき、そのための的確なフィジカルアセスメントについても言及していただきました。

多くの参加者に実行委員も交わり、学校安全について協議することができましたことは、ご参加いただきました皆様方とともに、日々の執務の見直しと今後の教育実践に向け、大変有意義であったと感じています。

昨年 8 月には、本会発足に多大なご支援をいただきました、吉田瑩一郎先生がご逝去されました。お悔やみを申し上げるとともに、吉田先生から頂いた温かで熱いお志を忘れず、今後も学校の安全文化の創造に向け、スタッフ一同、参加者の皆様方と共に研鑽を重ねたいと強く心に受け止めてまいります。改めて本フォーラムにご参加、ご協力いただきました皆様に、心より感謝を申しあげ、報告とさせていただきます。

会場の様子（グループ別体験交流）

